



《柳緑花紅頰》草池の欄 1955年

夏の展示

点と線と面

— 板画の美しさ —

2021年6月15日(火) - 9月20日(月)

棟方志功記念館

Munakata Shiko Memorial Museum of Art

開館時間 ● 午前9時～午後5時 休館日 ● 6月21日(月)、9月6日(月) 無料開館日 ● 9月13日(月) 棟方志功画伯命日
観覧料 ● 一般550円(450円)、学生(専門含む)300円(200円)、高校生200円(100円)、小・中学生無料
※ () は20名様以上の団体

〒030-0813 青森市松原二丁目1番2号 Tel.017-777-4567 <https://munakatashiko-museum.jp>



夏の
展示

点と線と面

— 板画の美しさ —

棟方志功は板画の美しさについて、「とくに木板画の美しさは、木から生まれる線や、点や、面(線でも点でもない、それ以外の板画の部分のことをいう)とから生まれてきます。」「彫られた線や、点によって、墨よりもさらに黒く、白よりも白くという美事に、詩をふくみ、余韻嫋嫋(じょうじょう)として極まりのない美しさがただよい、摺られた板面に湧き没するところまで、できたものでなくてはいけないのです」(『板画の話』1954)と語ります。彫刻刀で彫った部分が白い点や線となり、残りの板の部分が黒い面になる板画。棟方はその点と線と面から生まれる白と黒の対比こそ美しいとし、日本伝統の木板画の美しさを追求し続けました。

この白と黒の絶対比を生み出すために棟方は装飾表現を巧みに扱いました。その出発点となったのは1935年制作の《萬葉譜》。当時、油絵から転向し板画の道を模索する中で「板画は何か普通の絵とは違う、だから絵であらわせぬものをつくらねばならない」「絵を模様化することが一番の板画への早道ではないか」(『板画の道』1956)と感じた棟方は、花木が一杯に咲き誇っている様を描き表したこの作品で、遠近法を用いて空間の広がり表現する油絵とは異なる、対象を模様化するという独自の板画表現を生み出します。そして棟方が数多く描いた人物像では、白と黒のバランスをとるために多様な表現が試され、白い体、黒い体、模様を彫り込み、彫刻刀の使い分けなど、時代によって点と線と面、装飾の扱いや自由度は変化していきます。

こうして白と黒を基点とした板画の美しさを追求するからこそ、「油絵は原色で混りっ気のないものを描こう、板画では、黒と白を生かしてゆこう」(『板画道』1964)と話すなど板画、倭画、油絵、書それぞれの美しさをめざして描きました。夏の展示では、板画を中心に展示することで棟方がめざしたそれぞれの美しさをご紹介します。



1



2



4

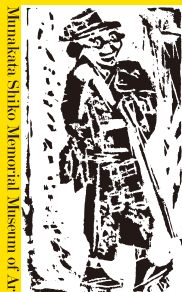


3



4

1 《邂逅板画冊》 板画 1955年
 2 《般若心経版画冊》羯諦羯諦の欄 板画 1941年
 3 《萬葉譜》松の欄 板画 1935年
 4 《いろは板画冊》部分 板画 1952年



Mumakata Shijo Memorial Museum of Art

交通のご案内

新青森駅 から	・南口より市営バス①のりば「東部営業所」、「県立中央病院前」行きへ乗車(約25分)、「堤橋」下車、徒歩10分 ・タクシーで約20分
青森駅 から	・東口より市営バス③のりば「横内環状〜青森駅」、「中筒井経由昭和太仏」行きなどへ乗車(約15分)、「棟方志功記念館通り」下車、徒歩4分 ・東口より市営バス②のりば「国道経由東部営業所」へ乗車(約12分)、「堤橋」下車、徒歩10分 ・タクシーで約15分
自動車	・青森自動車道 青森中央インターから約15分

